

謹んで新年のお慶びを申し上げます



奥尻町長
新村卓実

町民の皆様 新年あけまして おめでとーいございます

平成31年の新春を皆様とともに、つつがなく迎えることができましたことを心からお慶びを申し上げます。

皆さまには、平素から町政の推進に深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、29年度より生徒を全国から募集してまいりました町立奥尻高校には、前年度の倍以上の島留学生16名が入学したところであり、前年度より、新年度の島留学生の受入先を確保することが厳しい現状となったことから、現在青苗地区高台に20名の学生が生活できる寄宿舎を建築しているところであり、島留学生を始めとした奥尻高校の活躍は、新聞報道等で紹介されており、秋の高校野球大会では、連合チームで地区代表決定戦まで進み、北大大学院水

産科学研究院主催の「海の宝アカデミックコンテスト2018」では、磯焼け対策をテーマに「奨励賞」を受賞したところであります。今年も奥尻高校生の活躍を期待しているところであります。

また、6月30日に開催されました「第5回ムーンライトマラソン」では、函館マラソンと開催日が近いため参加者の定員割れが危惧されましたが、募集締切の1ヶ月前に募集定員の500名に対し、当日は538名のランナーが島を駆け抜けました。走ったランナーからは、非常に良い大会だったとのコメントが多数寄せられました。これも、町民皆様のおもてなしの賜物とおもいます。この紙面をお借りし、お礼を申し上げます。今年6月15日に開催されます「第6回大会」についてもご協力をお願いします。

さらに、7月1日には、「つぼん丸」が寄港し、270名の乗船客が本島に上陸し、島時間を楽しんで参りました。

しかし、観光シーズンを迎えた7月5日には、台風7号から変わった温帯低気圧の影響による大雨で、町内の道道と町道の四区間で土砂崩れが発生するとともに一部地域では、数日間の停電となりました。特に神威脇地区において

は、住民や宿泊客が孤立状態となり、その後も通行止めが続いたため、観光への被害が甚大となりました。

このような中、7月12日には北海道南西沖地震から25年を迎え、亡くなった人々を追悼し、黙とうをささげたところであります。また、南西沖地震から25年の節目の年と東日本大震災の犠牲者の鎮魂と被災者への励ましを目的に全国で同じ時刻に花火を打ち上げる取り組み「ライトアップ・ニッポン」に参加し、本町では、20年ぶりとなる花火が8月11日に打ち上げられました。

未曾有の災害を経験した本町においては、平時からいつ発生するかわからない災害への備えをしているところであり、9月6日未明には、北海道胆振東部地震が発生し、道内全域がブラックアウトになるという、道政史上初めての災害が発生しました。この影響により道内では、外国人観光客が大幅に減少し、道内経済に大きな影響を与え、本町への観光客もキャンセルが相次ぎました。

一方、一昨年から続いている北朝鮮鮮漁業者による日本の排他的経済水域（EEZ）内である大和堆周辺での違法操業は、本島の西海岸まで北上しており、本島周辺海域の主要魚種であるイカの資源量減

は、住民や宿泊客が孤立状態となり、その後も通行止めが続いたため、観光への被害が甚大となりました。

副町長	田中 敦詞
総務課長	新谷 順二
地域政策課長	杉山 静治
税務国保課長	山崎 和範
建設水道課長	片石 裕文
水産農林課長	満島 章
保健福祉課長	三浦 成一
企業管理課長	三上 郁也
発電課長	松田 雅樹
青苗支所長(兼環境センター)所長	阿部 元大
空港管理事務所長	深瀬 洋治
会計管理者	安藤 寛
他職員一同	



平成の元号が変わり、町民皆様がより良き一年となりますように…

少の一因にもなっています。さらに昨年は、北朝鮮籍とみられる木造船が一昨年の10倍を超える50件以上が確認されており、本町においても2隻が漂着しております。このような事態に日本海に住む国民の生活は脅かされており「町民の安全・安心に対して極めて憂慮すべき事態」として断じて容認できるものではありません。今後も国へ一層の取組み強化を要望してまいります。

次に、今年の町政について概略であります。何点か述べたいと思います。

まず、主な整備事業ですが、町民が待ち望んでおりました奥尻地区の狹隘区域でありましたなべつるから十字街までの道々奥尻島線において、道路の拡張工事が終了し、町民が安心して通行できる道路となります。また、奥尻港湾においては、新漁港区の出入港に支障を来しております岩礁への照射灯が完成し、漁船の出入港の安全が図られます。その他、道道長浜区間などの予算増額や神威脇漁港内の岸壁への波の遡上対策など、各漁港や港湾整備について国・北海道に要望してまいります。

次に、基幹産業の漁業についてであります。近年、地球温暖化などの影響により海水温が上昇傾向にあると言わ

れており、回遊魚であるイカやホッケの漁獲量が減少しており、漁船漁業への影響が深刻化しております。このため「採る漁業からつくり・育てる漁業」への転換を図るため、「アワビ・ウニ・カキ・ナマコ」などの磯根資源の養殖や放流を継続してまいります。一方、農業においては、酒米の作付けを振興させるために、今年には新たに「生酒」の醸造を実施するなど「持続可能な第一次産業」を目指してまいります。

次に地域の話題としては、北海道と自民党が中心となり、津波防災を学ぶ『世界津波の日』高校生サミット」を秋頃に道内で開催される予定で、その視察先の候補地として本町があがっております。また、航空自衛隊の隊員削減案については、地域に対する影響が甚大であることから、隊員の維持確保や毎年本町で実施しております陸上自衛隊の訓練の継続・拡大、さらには不燃物処理場建設においての防衛施設周辺に係る補助、国保病院への医官派遣の継続などについて、国に強く要請してまいります。

次に財政状況についてであります。老朽化している公共施設の改修や整備が喫緊の課題となっております。平成29年度においては、公

共施設整備基金を創設し、5千万円の積み立てを行ったところでありました。しかし、町の貯金となります財政調整基金積立金においては、9億円と管内で一番低い積立金額となっております。また、平成29年度決算における実質公債比率は11・3%で、将来負担比率も31・5%と、国の基準15%、30%をそれぞれ下回っております。しかし、交付税の減少等により厳しい財政運営の継続が見込まれる状況下で、今後予定されている役場や病院など公施設の建設に向けて、より効率的でかつ財政規模にあった新年度予算の計画を立てていく予定であります。

今年には平成の元号が変わる年でもあります。4年に一度の統一地方選挙の年でもあります。北海道知事、北海道議会議員、さらには参議院議員、本町においても町議会議員の選挙が行われます。選挙権は国民の権利であります。町民皆様の選挙投票をよろしくお願いいたします。

結びに新しい年が町民皆様にとりますように、より良き年となりますように、心からご祈念申し上げます。平成31年1月

奥尻町国民健康保険病院

- 院長 竹下和良
- 副院長 泉里豪俊
- 歯科医長 渡邊一史
- 薬局長 渡邊久代
- 臨床検査室長 大谷洋嗣
- 看護師長 前田裕子
- 事務局長 長崎武巳
- 他職員 一同

奥尻町選挙管理委員会

- 委員長 小林賢三
- 他委員 一同
- 書記長 新谷順二

奥尻町監査委員

- 代表監査 佐藤稟一
- 他委員 一同
- 事務局長 鴈原哲夫

奥尻町農業委員会

- 会長 海老原浩
- 他委員 一同
- 事務局長 満島章

平成三十一年 元旦



奥尻町議会議長 麓 敏也

町民一人一人が安心して暮らし 希望のもてる町づくりを目指して

町民の皆様

新年あけまして
おめでとぅございませう

平成31年の年頭にあたり、
謹んで新年のご挨拶を申し
あげます。

平成という年号が変わる最
後の年を迎えます。昨年は北
海道生誕150年、奥尻町におい
ては北海道南西沖地震から25
年と節目の1年を過ごしてま
いりました。

島の産業状況を振り返りま
すと、土木、建設業において
は、道、国関係の発注工事な
どで工事量、雇用においても
民宿、旅館と宿泊施設等にも
経済効果が見られたと思っ
ております。

しかし、一次産業において
ウニ、ナマコ業は、価格面で
安定した生産がありました。が、
イカ、ホッケ、タコ漁など漁
船漁業は前年を大きく下回る
水揚げ漁にとどまり、商工業



にも大きな影響があると、危
機感を感じております。早急
に漁港、港湾など静穏域を活
用した気象状況の変化にも対
応できる養殖漁業や、潜水に
よる漁業の割合を大きくして
いくことが求められます。
農業においても、7月の天
候不順などがありまして稲作
の作況指数の伸び悩み、ワイ
ン用ブドウの収穫量にも大き
な影響があったと伺っており
ます。

あまり明るい話題がありま
せんが、素牛や馬の市場価格
が安定していることなども含
め、堅実な農業を営み後継者
が出てきてくれることを願う
ものです。

2年前から募集しました奥
尻高校の島留学生は、昨年16
名が入学し、今年に向けての
説明会も全国各地を終えた
と伺いました。期待感をもつて
一人でも多くの島留学生が、
現在建設中の寄宿舎から奥尻
での新たなスタートをきって
ほしいと思っております。

平成三十一年 元旦

奥尻町議会

副議長・総務産業常任委員・
議会選出監査委員

青坂 賢二

総務産業常任委員長・広報編
集特別委員長・議会運営委
員

齋藤 伸彦

議会運営委員長・総務産業常
任委員

寅尾 裕志

総務産業常任副委員長・議会
運営副委員長・広報編集特別
委員長

工藤 勇

総務産業常任委員

紀伊国 俊美

総務産業常任委員・檜山広域
行政組合議会議員

水野 諭

総務産業常任委員・広報編集
特別委員・檜山広域行政組合
議会議員

松塚 政継

事務局長 鷹原 哲夫
他 職員 一同



奥尻町教育委員会 教育長

石 島 孝 司

奥尻町教育大綱

『ふるさとに学び、次代を担う あたたかい人づくり』

新年あけまして

おめでとぅございませす

謹んで新年の

ご挨拶を申し上げます。

町民の皆様におかれましては、希望に満ち溢れた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中は、本町の教育行政に深いご理解と多大なるご支援ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

奥尻町では昨年からは、従来の「教育委員長」と「教育長」を一本化した『新教育長制度』が導入され、私事になります。が新たに3年間『新教育長』として拝命することとなりました。

これからも町民の皆様のご支援やご厚情を賜りながら、島の子ども達や本町の教育行政

政の推進のため、全身全霊をもって職務にあたりたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年の教育行政を振り返りますと、学校教育・社会教育ともに概ね安定した事業を推し進めることができました。

学校教育では、コミュニケーション・スクール（学校運営協議会制度）が導入され地域とともにある学校づくりを指すとともに、外国語教育の充実やICT教育の導入のほか、社会教育では「おくしりチャレンジスクール」などの体験活動を通じ、地域人材との交流を深め、ふるさとに学び、子ども達の明るい笑顔を育む取組を推進し、今後も家庭や地域と一体となって奥尻町教育大綱に掲げた「あたたかい人づくり」を目指し、今

後も推進していきたいと思っております。

また、魅力ある取組みを実践している奥尻高校への「島留学生」が増加しているため、次年度以降の留学生の寄宿舎整備事業が進んでおりますが、島留学生は新しい交流人口であり、今後の町の活性化を担う若い力と考えます。将来の自立のため、親元を離れて暮らす子ども達に対し、地元の子ども達と同様ご支援ご協力をお願いいたします。

他にも教育施設の維持管理



教育基本方針

1. 確かな学力の育成と豊かな心を育てる教育の推進
2. 奥尻町の風土に根ざす生活文化向上のため、生涯学習の観点に立ち、ふれ合いと活力に満ちたまちづくりを目指す社会教育の推進
3. ふるさと奥尻を愛し、誇りが持てる人づくり

や環境整備等に課題もございますが、皆様のご理解やご支援を賜りながら町の教育の発展・振興に努めて参りたいと思います。

終わりになりますが、今後とも教育行政に深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、町民皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。

平成三十一年 元旦

奥尻町教育委員会

- 教育委員 上野 史朗
 (教育長職務代理者)
 教育委員 佐藤 康博
 教育委員 千田 真紀子
 教育委員 水野 展久
 事務局長 櫻花 幸久
 他 職員 一同